

ハイブリッドワークスペースの 「場」づくり

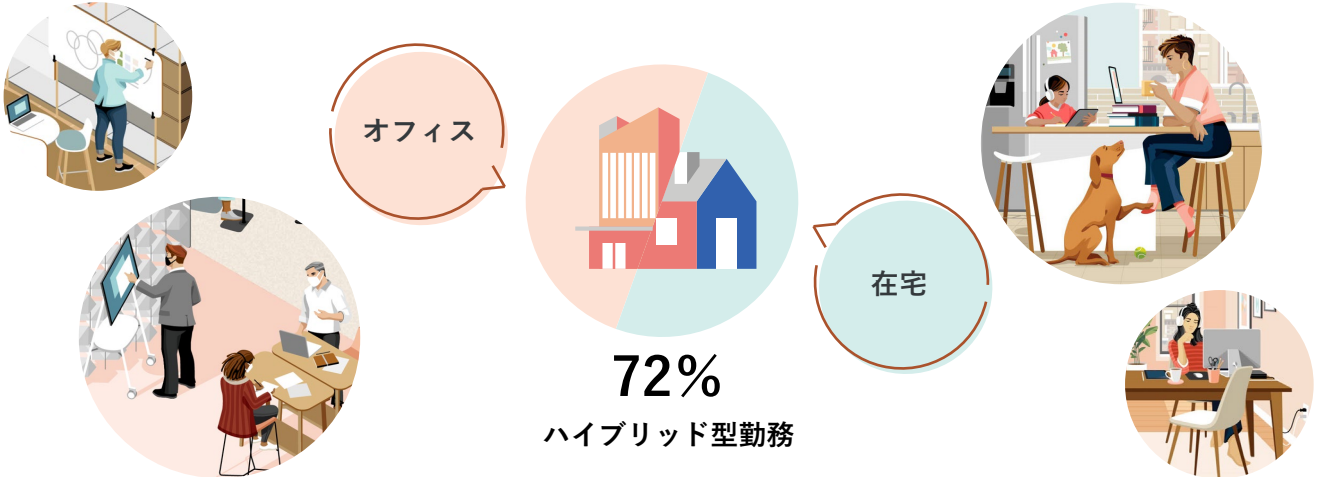
“4つのスペース”と“4つの設計基準”

 KUROGANE

従業員の意識変化

大きく変わった働き方

コロナ禍によって、私たちの暮らしや方や働き方、学び方が根本的に変わりつつあります。在宅勤務が増え、そのことで薄れていたコミュニティ意識を復活させるためにオフィスは重要な役割を持っています。オフィスはただ単に働く「場」から**人の繋がりや絆を築き目的意識や帰属意識を育む「場」**にシフトしています。



在宅勤務の課題

01

集中ワーク



自宅ではほとんどのワーカーは集中できていません。ワーカーはオフィスで仕事に集中したいと感じています。

02

コラボレーション



新しいアイデアの生成と複雑な問題解決をする生成型は、バーチャルな環境となるとそのハードルは、より高くなります。

03

コミュニケーション



自宅では上司、同僚と随時コミュニケーション、雑談が取れず仲間とのつながりを望んでいます。

04

Web会議



多くの人が、内容、価値共有の際に表情や視線、間合いや空気感など非言語メッセージを読みとるのに苦勞をしています。

オフィスに求められること

オフィスの出社の主な目的 「集中」と「人の繋がり・コラボレーション」

この個（集中）とチーム（コラボレーション）がそれぞれ**目的を達成させるスペース**と、両スペースが直ちに**融合できる仕組み**が求められています。また**オフィスに出社している人も仲間と繋がること**、さらに**出社している人と、在宅の人を繋げる**必要もあります。密を避けて**感染防止**のために**複数人のコラボレーションはオープンな場所**で、逆に**1人のWEB会議をする時は個室**で行うことが求められており**オープンスペースとプライバシーのバランスを考慮**する必要があります。

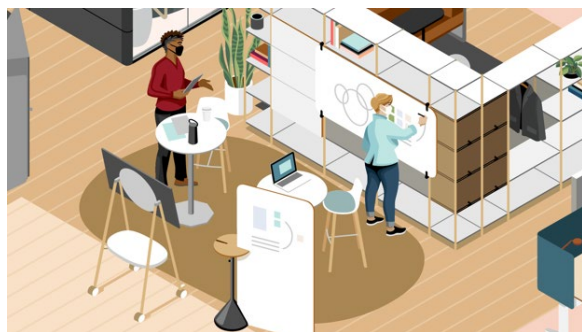
目的達成の仕掛け

これからはワーカーがオフィスに目的を持って出社します。その**目的達成をさせる仕掛、スペースが必要**です。



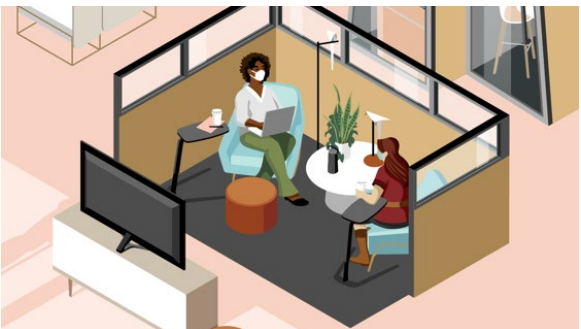
集中（個）

- ✓ 視覚、音響の遮断による集中
- ✓ 人の気配を感じながらの集中



コラボレーション（チーム）

- ✓ 帰属意識構築
- ✓ アイデア生成スペース
- ✓ 個とチームの活動のリアルタイムでの融合
- ✓ 個からチーム活動への素早い切り替え



人との繋がり（コミュニケーション）

- ✓ 仲間との繋がり
- ✓ 在宅勤務での孤立感の緩和



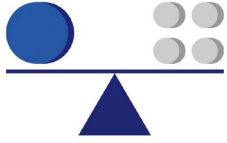
在宅の人との繋がり（ネット+リアル）

- ✓ 場所に捉われずメンバー同士が対等に参加
- ✓ 感染防止から複数のコラボレーションはオープンスペースで実施
- ✓ 必要に応じて仕切りの設置が出来る

これからのオフィス

従来のABW（Activity Based Working）だけではワーカーが目的を持って出社するための効果的や実利的な機能を満たしません。機能を満たすために**オフィスに関する基準、概念を根本的に見直した4つの設計基準**を更に付加し、「人」がより豊かに働ける「場」にする必要があります。

個 + チーム



個人とチームワークを
公平にサポート



従業員がオフィス勤務復帰を望む主な理由は、チーム活動のためだけであると考える人もいますが、特に専門性の高い分野では集中して仕事に没頭できる場所ということからオフィスに復帰したいと考えている人も多くいます。イノベーションを起こす創造プロセスのために、オフィスには**個とチームの両作業のニーズをバランスよくサポート**することが不可欠です。

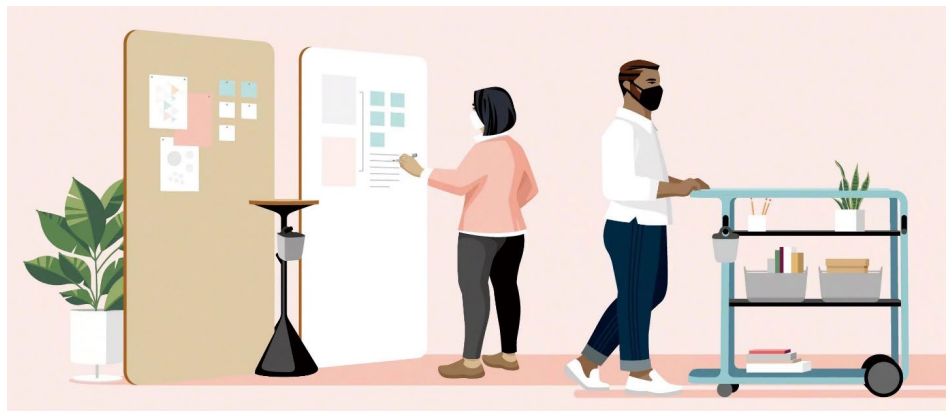


- ・ コラボレーションと集中ワークの両方を素早く切り替えられるスペース配置。
- ・ 集中ワークと同僚との繋がりをバランスよくサポート。
- ・ 仲間との繋がり、目的意識の達成。

固定から流動へ



より柔軟で機動力の
あるスペース

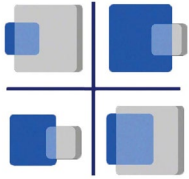


オフィスはもともと将来の進化や変化を前提に設計されていないため、躯体や家具は固定的で変更が困難でした。しかし、今後は**進化し続ける働き方や必要に応じて「個」と「チーム」がリアルタイムに融合でき、柔軟で機動力のあるスペース**が求められます。

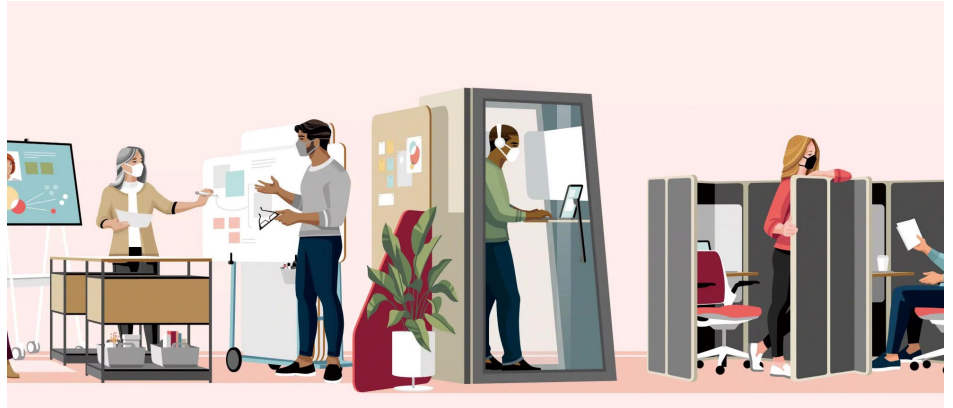


- ・ 必要に応じてスペースの拡張縮小などスペースをより柔軟に調整させる。
- ・ スペースを多目的利用することでスペースの稼働率を上げると同時に、チームがお互いのアイデアを試し、発展させる機会を増やす。

オープン+プライバシー



プライバシー重視の「個」
スペースと
オープンな「チーム」
スペース



密集度の高いオープンスペースでは、**個人ワークやWEB会議を視覚的、音響的プライバシーを確保するために仕切りで囲う、またはブースを設置することが必要です。** より頻繁に会議室を利用するチームには、安全性と柔軟性という観点からオープンなスペースで必要に応じて**空間を仕切りながら行う**ことを検討しましょう。

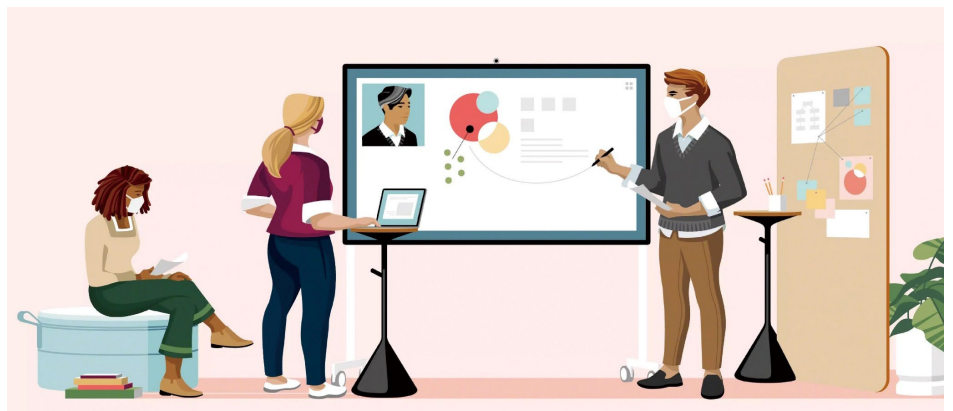


- ・視覚的、音響的、区域的なあらゆる側面からプライバシーを調整できるスペース。
- ・集中は視覚的プライバシーを考慮し個室で行い、コラボレーションは感染防止の観点からオープンスペースで適時簡易仕切りを利用する。

ネット+リアル



テクノロジーを介した
人間価値体験



外部との繋がりが求められる**チーム活動に必要なのは、リモートからも対等な体験を提供できるスペースとテクノロジー**です。ノートパソコンやスマホだけに限定しないウェブ会議の新たな方法を探りましょう。



- ・リアルとネットを融合させることで対面とリモート両方でコラボレーションをサポート。
- ・全員が対等に参加し、外部からの邪魔を防ぎWEB会議に集中出来るスペース。

- Border High Seat (ボーダーハイシート)
- Flex Marker Board (フレックスマーカーボード)

➤ ソーシャル

- Flex Collection (フレックスコレクション)

➤ コラボレーション
➤ ラーニング

- B-Free Lounge (ビーフリーラウンジ)

➤ コラボレーション
➤ ソーシャル

- Flex Active Frames (フレックスアクティブフレーム)
- HANARE (ハナレ)

➤ コラボレーション
➤ ソーシャル

- Low Media Unit (ローメディアユニット)
- Flex Marker Board (フレックスマーカーボード)

➤ コラボレーション
➤ ラーニング

- Flex Active Frames (フレックスアクティブフレーム)
- Campfire (キャンプファイヤー)

➤ パーソナル
➤ コラボレーション



■ **Work Cabin**
(ワークキャビン)

➤ パーソナル

■ **Migration SE Pro**
(マイグレーションエスイープロ)
■ **Flex Marker Board**
(フレックスマーカーボード)

➤ パーソナル

➤ コラボレーション

■ **LexCo Collection**
(レキシココレクション)
■ **Surface Hub 2S**
(サーフェスハブ2S)

➤ コラボレーション

■ **Brody Work Lounge**
(ブロディワークラウンジ)

➤ パーソナル

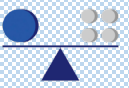
■ **Border Low Seat**
(ボーダーローシート)

➤ ソーシャル



スペースプランのご提案

個+チーム



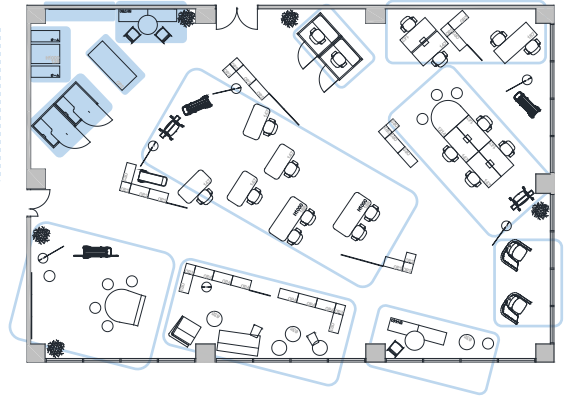
固定から流動へ



オープン+プライバシー



ネット+リアル



➤コラボレーション

➤ソーシャル



ダイナミックなコラボレーションをサポートするFlex Active Frameはチームのための**柔軟で機能的、かつ魅力的な「ホーム」**を構築できます。アイランド型のシェルフ天板を利用して、立位姿勢でカジュアルにワーカーと繋がるスペースを演出します。オフィスの入口や通路に配置することで偶発的な交流を促し、帰属意識の構築スペースとなります。



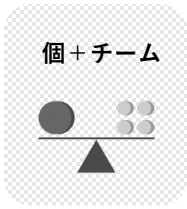
Flex Active Frameで行われている会話や、人の流れ、気配を感じながら集中ワークができるHANAREは、チームとの繋がりを障害されずに、直ちにコラボレーションができます。



Borderは狭いスペースでも配置が可能なユニット型ラウンジチェアです。ハイスツールタイプは、様々な姿勢で意見交換をすることで感性や創造力が刺激され、何気ない会話からアイデアが生まれます。そのアイデアをFlex Marker Boardに書くことで、**議論が活発になりイノベーションに繋がります。**



これらのスペースはSurface Hub 2Sを併用することで**社外からも平等にコラボレーションに参加**できます。



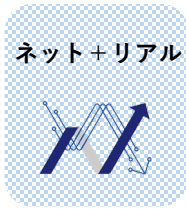
個+チーム



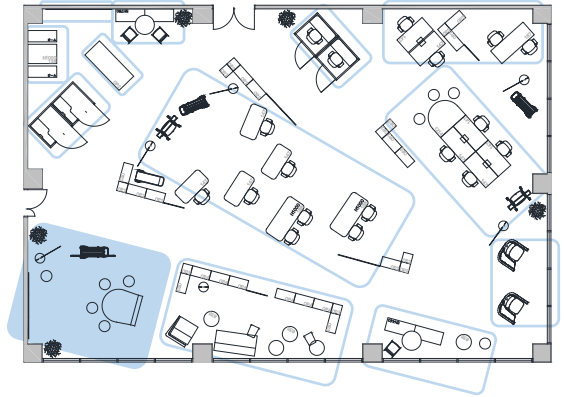
固定から流動へ



オープン+
プライバシー



ネット+リアル



➤コラボレーション

➤ラーニング



Low Media Unitはテクノロジーと家具を統合し、**人、スペース、情報を繋ぎます**。今までにないダイナミックなコラボレーションと高いパフォーマンスを実現します。

ラウンド型の天板形状により**全員の距離が均等で、ネットとリアルのどちらにおいても対等に参加**できます。

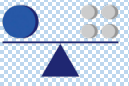


また、Flex Marker Boardをスタンドに掛けて簡単なブレスト、その後、ウォールレールに移して他のアイデアと統合させるコラボレーションができます。**デジタルとアナログが繋がるスペースとしてLow Media UnitとFlex Marker Boardを併用**することで、モニターに映し出された資料を見ながら出てきたアイデアをMarker Boardに書くことができ、参加者全員に情報共有することが可能です。壁面を有効活用しながら、**素早いアイデア出し、まとめ作業**ができます。



Buoyは座っている時でも自由な動きを可能にする椅子で、**よりアクティブなコラボレーションを促進**します。上下昇降が可能で、重さも約9kgと軽量なので、簡単に移動させることができます。

個+チーム



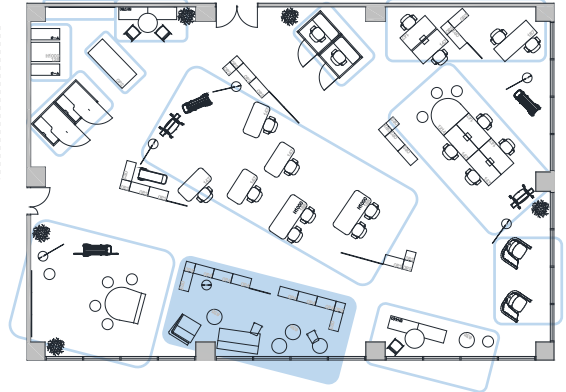
固定から流動へ



オープン+プライバシー



ネット+リアル



➤コラボレーション

➤パーソナル



オープンスペースの仕切りとして、Active Framesはチームスペース間を明確に区切ると同時に、人が行きかう通路からの**視覚的プライバシーの確保、補助的スペースのパフォーマンス向上**にも貢献します。

グリッド式のモジュラー構造により、扉と鍵付き個人用ロッカーの追加、ブロックのように棚を積み上げたり増やしたりすることで、**スペースのプライバシーレベルを自在にコントロール**できます。

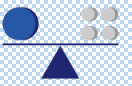


軽量の自立式スクリーンは、更なるプライバシーの確保や情報共有が必要な際に活躍します。**マグネット式エッジでスクリーンを瞬時にくっつけたり離したりしながらスペースの再構成も容易**です。また、押しピン可能なため情報表示の幅が広がります。

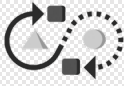


Campfireは家のリビングでくつろぐように、ノートパソコン片手にリラックスしながらの作業、カジュアルなチームミーティングに適しています。**メッシュ素材のスクリーンは周りとのコンタクトもありながらプライバシーを確保**できる便利な間仕切りです。

個+チーム



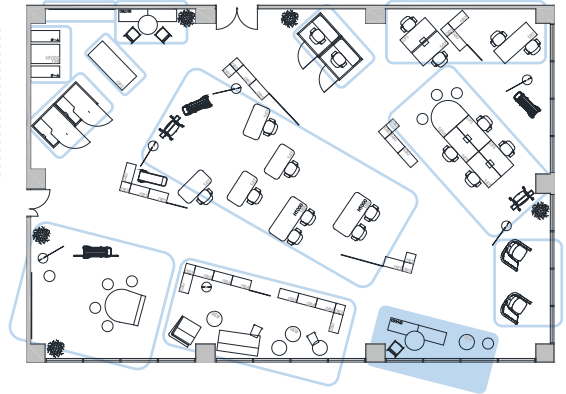
固定から流動へ



オープン+
プライバシー

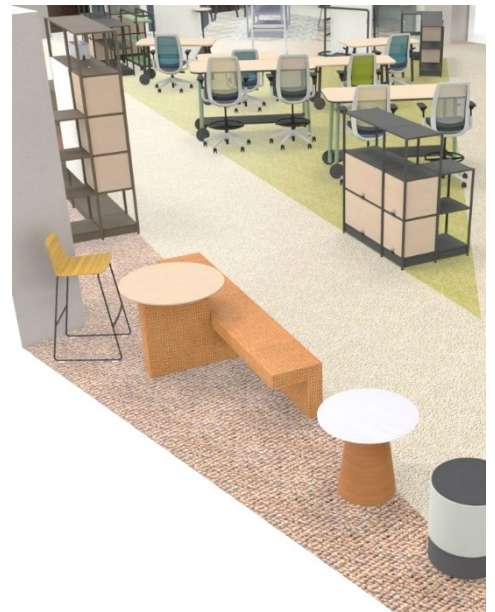


ネット+リアル



➤コラボレーション

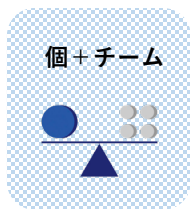
➤ソーシャル



Borderはその名の通り、**空間を仕切る役割**も担うことができます。背もたれがないので、左右どちらからでも腰掛けることが可能です。スマートワーキングと多彩なコミュニケーションスタイルをサポートします。



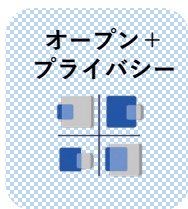
またこのような狭い場所でもBorderを配置することによってコラボレーションエリアを作ることができます。



個+チーム



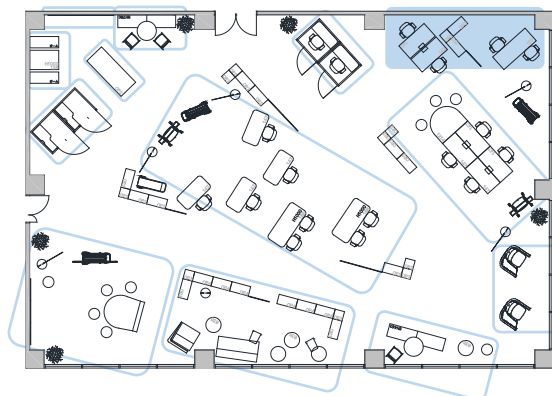
固定から流動へ



オープン+
プライバシー



ネット+リアル



➤コラボレーション

➤ソーシャル



Migration SE Proベンチは、**チームメンバーを集わせながらも個々に作業面の高さを調節**できる自由度を兼ね備えています。モバイルワーカーがホームベースとして利用できる**高機能なタッチダウンスペース**としても最適です。

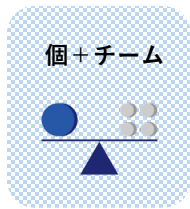


自発的なミーティングの「場」としてMigration SE Proデスクを配置することで、**立ちながらのブレスト**や**ひとりでのアイデア思考**など**チームのダイナミックなハブ**として機能します。



個人スペースの近くにコラボレーションゾーンを配置し、ワークモードを「**個人**」から「**グループ・チーム**」へと**シームレスに移行できる環境**を創出します。

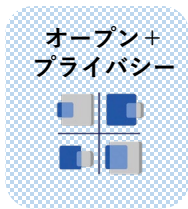
さらにFlex Marker BoardやSurface Hub 2Sを用いてリアルとネットを融合させ、自発的なコラボレーションがより**ダイナミックなコラボレーションへと変化**します。



個+チーム



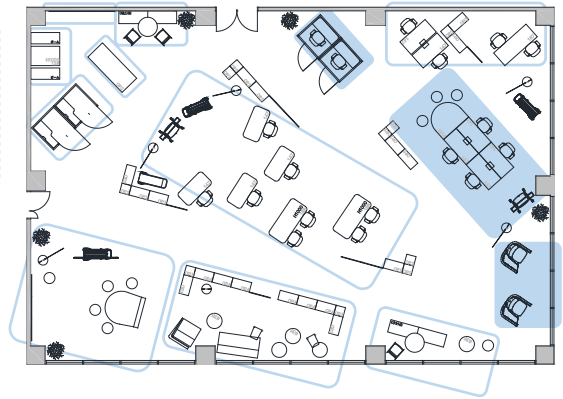
固定から流動へ



オープン+
プライバシー



ネット+リアル



➤コラボレーション

➤パーソナル



WorkCabinは扉付のブースで集中できる快適な空間をつくり、**フレキシブルな働き方をサポート**します。

一方で、Brody WorkLoungeは邪魔が入って集中が途切れないスペースでありながら完全な個室空間ではないので、**人の流れを感じながら個人作業**を行えます。オフィスでの**視覚的な邪魔や雑音から逃れて仕事に集中したり、気持ちの切り替えをするための快適なシェルター機能**があります。

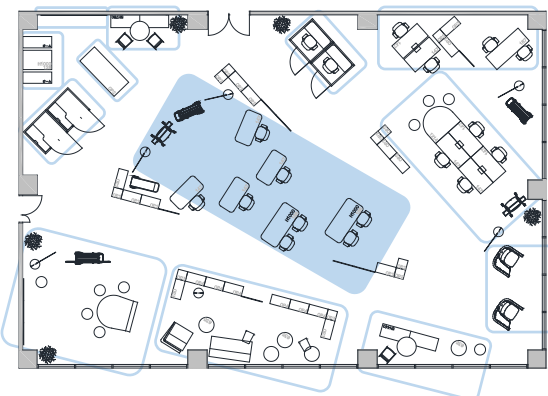
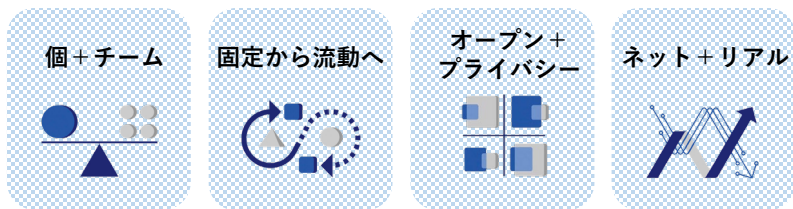


個々がタスクに集中するだけでなく、ベンチ型デスクのLexCoを用いることで**組織力や帰属意識の向上**に期待ができます。

コラボレーショントップは瞬時のコラボレーションが可能な「場」を創出し、チーム力をより強固なものにします。



集中スペースとコラボレーションスペースを近くに配置することで、個人とチームの繋がりをバランス良くサポートでき、さらにSurface Hub 2Sを用いてリアルとネットを融合させることで、対面とリモートの両方でコラボレーションを可能にします。



- ラーニング
- コラボレーション



トレーニング・ワークショップ・プレゼン



コラボレーションは感染防止の観点から、オープンスペースで行います。Flex Collectionは参加人数や規模に応じてスペースの拡大縮小などスペースをより柔軟に素早く構成ができます。個人ワークとチームのワーク以外にも、タッチダウン、トレーニング、ワークショップ、プレゼンなど目的に合わせて並び替えができ、効率的なスペース利用ができます。



タッチダウン・プロジェクトチーム



集中ワーク・コラボレーション



ペアワーク・タッチダウン

Steelcase®
AUTHORIZED DEALER



KUROGANE

株式会社くろがね工作所
www.kurogane-kks.co.jp

お問い合わせは各営業所までお願いします。

東 京 〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 芝日景有楽ビル
TEL. 03-5439-9111 / FAX. 03-5439-9115

札 幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西7丁目3 (北一条第一生命ビルディング)
TEL. 011-281-2373 / FAX. 011-281-2367

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 (御幸ビル)
TEL. 052-253-6985 / FAX. 052-253-6986

大 阪 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (大阪四ツ橋新町ビル)
TEL. 06-6538-1012 / FAX. 06-6538-7434

福 岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1丁目2-21 (Wビルディング渡辺通)
TEL. 092-523-1440 / FAX. 092-523-1442